

医学概論		講義	教授 柳田 浩義	
科目カテゴリー	救急救命士コースの専門分野科目	科目ナンバリング	13341101	

1. 授業のねらい・概要

本授業は、これまでの医学や医療の歴史を通して、医学とは何か、人の生、自己意思、命の尊さ、研究倫理や死の概念といった生命倫理について理解を深め、さらに医学の分野に特化した健康と病気の定義、予防医学や最新の医学についても理解する。

2. 授業の進め方

テキストの内容を、適宜、スライドと配布資料を用いて授業する。授業の最後に最近の国家試験問題などを出題し解答を出席カードに記載して提出させる。適宜、論文や新聞・雑誌の記事などから具体的な出来事を取り上げて診療の現場に即した説明も行う。

3. 授業計画

<p>1. 医学の定義とその使命 医学とは何か、医学の使命について理解する。</p> <p>2. 医学の歴史 近年医学の発展や概要について理解する。</p> <p>3. 医の倫理学 医学や医療に携わる上で必要となる倫理観についての理解を深める。</p> <p>4. 先天異常と出生前診断 先天異常と出生前診断について理解し、生命の誕生に関する理解を深める。</p> <p>5. 周産期・新生児医療 周産期および新生児医療についての理解を深める。</p> <p>6. 子供の事故 子供の事故の現状を理解し、その問題点について理解を深める。</p> <p>7. 小児の虐待 小児の虐待の現状と救急隊員が関わる意義について学修する。</p> <p>8. 小児の感染症 小児に特有の感染症について理解する。</p>	<p>9. 小児救急 小児の救急疾患とその対応について理解を深める。</p> <p>10. 緩和医療と安楽死 終末期医療の実際と尊厳死・安楽死について理解し、人の「生」と「死」についての倫理観についての理解を深める。</p> <p>11. 脳死・臓器移植 植物状態と脳死の違いや、臓器移植に伴う法律や実施手順を理解する。</p> <p>12. 血液事業と輸血 本邦の献血から輸血までの流れを理解し、その意義について理解する。</p> <p>13. 予防医学 ワクチンによる感染症予防について学修する。</p> <p>14. アレルギー・免疫 アレルギー・免疫疾患とその救急対応を学修する。</p> <p>15. 現代医学 新興感染症・がん・最新医学（iPS細胞等）の現況を学ぶ。</p>
---	---

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

毎回の授業を受講するまでに前回の授業内容を、テキストと配布資料を使って復習しておく。さらに、授業の最後に出された問題を復習しておく。この問題は次回の授業の初めに解答を解説する。なお、これらの準備学習には90分以上が必要である。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

毎回、過去に実施された国家試験などの問題を実践、解答させる。問題解答の際、また定期試験実施の際、解答のポイントおよび出題意図を試験終了後に説明する。

6. 授業における学修の到達目標

- 1) 医学の歴史から、人と病気の関連性を理解する。
- 2) 予防医学の観点から、現代における「健康と病気の定義」について理解する。
- 3) 「ヒポクラテスの誓い」を始めとして、その後提言された内容から、様々な生命倫理学の諸問題を理解する。
- 4) 人の「死」という概念を医学的に理解できる。
- 5) 人の命や健康を重んじた言動や行動が、「救急処置演習や実習」で実施できるようにする。

7. 成績評価の方法・基準

平常点 (30%)、定期試験 (70%) を総合的に評価する。

8. テキスト・参考文献

テキスト：北村 論著，医学概論 改訂8版，中外医学社，2023年

参考文献：小関一英編，2023年版救急救命士国家試験対策出題分野別国試験問題・解説集，晴れ書房，2022年
適宜指定する教材

テキストは毎回の授業に必ず持参すること。また，参考文献は適宜紹介する。

9. 受講上の留意事項

携帯電話の使用，飲食，帽子の着用は禁止とする。

欠席回数が全講義回数の3分の1(6回)以上となった場合には受験資格を失う。

遅刻，欠席ならびに授業中の私語，許可の無い教室の出入り，授業に関係ない言動は慎むこと。

医学系授業の基礎となり，医療従事者であれば常に考え，身につけなければならない学習内容である。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当有無

該当する。医療機関における医師としての実務経験を活かして講義を行う。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

救急処置演習 A-I		演習	准教授 古川 慎太郎 講師 田口 弘茂 助教 水上 治彦 非常勤講師 廣田 恵典	
科目カテゴリー	救急救命士コースの専門分野		科目ナンバリング	13391101

1. 授業のねらい・概要

本授業は、人の命の尊さや大切さを理解するとともに応急処置要領を修得し、災害現場や救護ボランティア現場において即戦力となる人材を養成することをねらいとする。

2. 授業の進め方

応急処置に関する知識と技術を確実に修得させるために、シミュレーション型実技訓練に重点を置いて演習を展開する。また、座学を並行して行い、演習に必要な知識の修得を図る。

3. 授業計画

<p>1. オリエンテーション 教員紹介、授業進行、班編成、実習室の使い方、規律、団体行動の必要性 救急救命士の役割と将来像・応急手当の目的について</p> <p>2. 環境観察 河川、運動場、道路など実際に赴き、環境観察の要点を理解する。</p> <p>3. 環境観察～傷病者観察 環境観察・傷病者観察に必要な知識・技術を習得する。</p> <p>4. 環境観察要領、傷病者観察要領 訓練人形を用いて心肺蘇生法(BLS・成人)の評価をし、技術を習得する。</p> <p>5. 感染対策、小児・乳児の蘇生について理解する。</p> <p>6. 人工呼吸ポケットマスク・BVMの取り扱い 人工呼吸を含めた心肺蘇生法(BLS・小児・乳児)の評価を行う。</p> <p>7. AEDの種類・除細動と蘇生について理解する。</p> <p>8. 心肺蘇生法一連の活動のスキルチェックを行う。</p> <p>9. 救急要請～口頭指導(心肺停止・急病人)について理解する。</p> <p>10. 窒息を疑う場合の取りつき方法(成人・小児・乳児) 気道異物、手動的異物除去：腹部突き上げ法、背部叩打法、胸部突き上げ法を習得する。</p> <p>11. 気道の解剖、接触～気道確保・初期評価について理解する。</p> <p>12. 傷病者への取りつき・外見の評価と気道に関する観察について習得する。</p> <p>13. 循環・意識について理解する。</p> <p>14. 傷病者への取りつき・循環に関する観察と意識状態に関する観察 皮膚の状態と体温に関する観察を習得する。</p> <p>15. 第1回～14回までの実技確認試験</p>	<p>16. 第1回～14回までの筆記試験</p> <p>17. 現場活動者の情報共有について理解する。</p> <p>18. 外傷傷病者への取りつき・状況評価と安全確保軽症傷病者へのアプローチ：直接圧迫止血三角巾と間接止血ターニケットを習得する。</p> <p>19. 外傷傷病者に対するアプローチと創傷処置について理解する。</p> <p>20. 創部の観察と三角巾を用いた被服止血を習得する。</p> <p>21. 骨折固定処置・災害時に活用できるものについて理解する。</p> <p>22. 骨折の固定法・シーネを用いた上肢の固定、三角巾を用いた上肢の固定を習得する。</p> <p>23. 救急要請と口頭指導(ケガの応急手当)について理解する。</p> <p>24. 外傷傷病者への取りつき・受傷機転の把握骨折の固定法、シーネを用いた下肢の固定について理解する。</p> <p>25. スポーツ現場・日常生活で起こる外傷に対する初期評価と頸椎保護について理解する。</p> <p>26. 外傷傷病者への取りつき・初期評価と頸椎保護、ネックカラーによる頸椎固定を習得する。</p> <p>27. 全身固定について理解する。</p> <p>28. 外傷傷病者への取りつき・バックボードの特性について、バックボードを利用した全身固定を習得する。</p> <p>29. 第17回～28回までの実技確認試験</p> <p>30. 第17回～28回までの筆記試験</p>
---	--

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

カリキュラムに応じた予習・復習内容（課題レポート、小テストの見直し、ノート整理）を適宜提示することがある。これには週3時間以上を要する。実技については、次回の授業までに訓練し修得する。これには相当数の時間を要する。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

- 1) 小テスト
誤った問題についてはレポートにまとめ、次回の授業時に提出しフィードバックを行う。
- 2) 課題
 - a) 教員は学生が提出した課題を評価し、フィードバックを行う。
 - b) 課題で重要な部分は、次の授業始めにその内容を口頭で説明する。

6. 授業における学修の到達目標

- 1) 救急救命士資格を目指す学生として、倫理感・規律・礼儀を身につける。
- 2) 救急現場の「危険」と「安全」を理解し、危険時には正しい判断ができる。
- 3) 応急処置の実施方法を理解する。

7. 成績評価の方法・基準

成績評価の基準として、処置により病態の改善を予見するなど適切な思考判断を下し得る知力、技術の獲得ができたかを以下の方法で評価する。

- 1) 成績評価項目
 - a) 事前の授業の準備と理解の評価
 - b) 授業態度・主体的な授業への取り組みと講義の理解度の評価
 - c) 授業後の内容の整理と課題の提出の評価
 - d) 講義内容の理解度を試験で検討
- 2) 成績評価の方法
 - a) 授業内容の整理・提出（20%）
 - イ) 事前の授業の準備と理解
 - ロ) 授業態度・主体的な授業への取り組み姿勢
 - b) 実技試験
 - イ) 受験資格として80%以上の出席かつ、全ての課題が期限までに提出され合格している事が必要である。
 - ロ) 合否を判定する。不合格のまま単位が出されることはない。
 - ハ) 追試験の該当・手続きについては履修要項を参照し（但し追試験料は不要）、該当しない欠席については試験放棄とみなす。
 - ニ) 再試験は必要に応じて1回のみ実施する（但し再試験料は不要）。
 - c) 筆記試験（80%）
 - イ) 受験資格として80%以上の出席かつ、全ての課題が期限までに提出され合格している事が必要である。
 - ロ) 中間試験は必要に応じて実施する。
 - ハ) 中間試験・期末試験結果それぞれの点数の60%以上を合格とする。
 - ニ) 追試験の該当・手続きについては履修要項を参照し、該当しない欠席については試験放棄とみなす。
 - ホ) 再試験は、中間試験・期末試験それぞれ必要に応じて1回のみ実施し、60%以上を合格とする。
 - ヘ) 再試験の手続きについては履修要項を参照。

8. テキスト・参考文献

改訂第11版 救急救命士標準テキスト（へるす出版）
改訂7版 救急蘇生法の指針2025 市民用・解説編（へるす出版）
適宜指定するテキスト

9. 受講上の留意事項

- 1) 医学系授業の基礎となり、医療従事者であれば常に考え、身につけなければならない学習内容である。
- 2) 救急救命士としての資質を習得するために必要な団体行動、集団生活における時間管理・規律、礼儀、倫理感を養う。
- 3) 以下に該当する場合は、退出を命じ当日授業を欠席扱いとする。
 - a) 実習に相応しい身だしなみ（アイロンがけした制服、黒色または紺色の T シャツ、黒色または紺色の靴下、汚れていない内履、及び名札の着用）が履行できない場合。
 - b) 長い爪、髭、過度に明るく染色した頭髪、アクセサリーの着用等、社会通念上医療従事者として救急活動に従事する上で、相応しくないと認められる場合。
 - c) 使用するテキストや資料、個人資器材（腕時計、聴診器、ペンライト、ゴーグル）、その他授業に持参するよう指示した物品を忘れた場合。
 - d) スマートフォンなど音の出る電子機器については、電源を切ることを原則とし、これに従わない場合。
 - e) 居眠りや落ち着きのない言動等、授業の円滑な進行を妨げると教員が判断した場合。
 - f) 授業開始 10 分前までに事前連絡がない遅刻、及び 30 分以上の遅刻。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当有無

該当する。本授業は、公的機関等における実務経験を活かして指導する。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

救助・防災演習		演習	准教授 古川 慎太郎 准教授 甲田 智之 講師 田口 弘茂	
科目カテゴリー	救急救命士コースの専門分野科目	科目ナンバリング	13391105	

1. 授業のねらい・概要

救助・防災活動を行うための基礎知識・技術，規律，協調性，判断力，行動力等を修得することをねらいとする。

2. 授業の進め方

屋外または屋内での実動訓練を中心に授業を展開する。授業への取り組み姿勢に応じたグループ分けを行い，安全かつ効率的な授業展開を行う。なお，安全管理や部隊活動に係る留意事項について繰り返し指摘される学生については，危険を伴う訓練には参加させない（見学のみとする）。

3. 授業計画

1・2. オリエンテーション（授業の目的・進め方）	17・18. 救助用ロープ等の基礎知識
3・4. 規律訓練①（礼式の基本）	19・20. ロープ結索の基本（結合・結節・結着）
5・6. 規律訓練②（編成・隊形・整頓）	21・22. 救助資器材の特徴①（ロープ・スリング）
7・8. 規律訓練③（停止間の動作）	23・24. 救助資器材の特徴②（カラビナ・制動器）
9・10. 規律訓練④（行進間の動作）	25・26. 要救助者へのアプローチ・搬送
11・12. 規律訓練⑤（方向変換・隊形変換等）	27・28. 想定訓練①
13・14. 規律訓練⑥（総合）	29・30. 想定訓練②
15・16. 効果測定	

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

適宜提示する事項に関する事前学習，授業内容の振り返り，資料整理，自主練習等を行う必要があり，各授業につき90分程度を要する。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

口頭や資料提示等により，個別または授業中の講義を通じて行う。

6. 授業における学修の到達目標

- 1) 救助・防災活動における安全管理の重要性について理解を深め，現場活動に必要な基本知識・技術を習得する。
- 2) 救助・防災活動を行う上で不可欠な規律を身に付ける。

7. 成績評価の方法・基準

3分の1を超える欠席は，単位を与えない。

授業後に提出する実習ノートおよび授業における活動状況により評価する。（100%）

なお，活動状況は，出席状況・授業態度・積極性・協調性・判断力・行動力等を踏まえて総合的に評価する。

8. テキスト・参考文献

適宜指定する資料

9. 受講上の留意事項

- 1) 本科目は，本コースの全学生が履修しなければならない。
- 2) 医学系授業の基礎となり，医療従事者であれば常に考え，身につけなければならない学習内容である。
- 3) 救急救命士としての資質を習得するために必要な団体行動，集団生活における時間管理・規律，礼儀，倫理感を養う。

4) 以下に該当する場合は、退出を命じ当日授業を欠席扱いとする。

- a) 実習に相応しい身だしなみ（アイロンがけした制服，黒色または紺色のTシャツ，黒色または紺色の靴下，汚れていない内履，及び名札の着用）が履行できない場合。
- b) 長い爪，髭，過度に明るく染色した頭髪，アクセサリーの着用等，社会通念上医療従事者として救急活動に従事する上で，相応しくないと認められる場合。
- c) 使用するテキストや資料，個人資器材（腕時計，聴診器，ペンライト，ゴーグル），その他授業に持参するよう指示した物品を忘れた場合。
- d) スマートフォンなど音の出る電子機器については，電源を切ることを原則とし，これに従わない場合。
- e) 居眠りや落ち着きのない言動等，授業の円滑な進行を妨げると教員が判断した場合。
- f) 授業開始10分前までに事前連絡がない遅刻，及び30分以上の遅刻。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当有無

該当する。本授業は，公的機関等における実務経験を活かして指導する。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。